

# 令和 5 年度

## 社会福祉法人あだちの里

### 事業報告

#### 目次

- I 法人使命の推進
- II 法人の意思決定・議決機関等
- III 法人経営と事業の取組
- IV 後援会活動への協力
- V 寄付一覧

## I 法人使命の推進

5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の類型が2類から5類に変更されましたが、障がい者支援施設や障がい福祉サービス事業所はハイリスク施設として位置付けられ、感染防止対策を講じながら通常活動に戻してきました。ご利用者の活動、イベント等は、4年ぶりに実施することが出来たものもあります。

令和5年度は第2期中長期事業計画が最終年度に当たり、業務を継続的に改善するためPDCAサイクルを基に、内部環境、外部環境を鑑みて当年度事業計画並びに第2期中長期事業計画の実施・検証・評価を行いました。

法人の4つの重点課題①「福祉サービスの充実」②「人材確保、育成、定着」③「労働環境を含めたコンプライアンスの徹底」④「法人ガバナンス強化と健全な法人経営」に関する主だった実施内容は次のことが挙げられます。

- ①生活介護（作業訓練型）事業にて送迎サービスの実施、強度行動障がい者に対する支援力の強化、理学療法士の導入によるリハビリテーションを実施しました。
- ②必要数の新任職員を確保できましたが、同性介助を行う上で男性職員の割合が少ない結果となりました。また、役職者等経験を有する職員が退職することもあり課題となりました。
- ③働き方改革の実践に繋げ、年次有給休暇の取得率の向上、残業時間の削減に取り組みました。また、未整備でした文書管理規程を改正、全事業所の運営規程の改正等規程類の改正を行いました。
- ④法人ガバナンスを強化するため、内部管理体制の基本方針を策定し、公益通報対応規程を制定しました。

## II 法人の意思決定・議決機関等

### 1 理事会・評議員会

#### (1) 第1回理事会(令和5年6月8日)

- 第1号議案 令和4年度法人事業及び各事業の事業報告案
- 第2号議案 令和4年度法人本部会計及び各事業会計の決算報告案
- 第3号議案 令和4年度監事監査報告
- 第4号議案 令和5年度第一次補正予算案
- 第5号議案 第15期理事・監事の候補者案
- 第6号議案 定時評議員会招集案
- 第7号議案 役員等賠償責任保険契約更新案
- 第8号議案 職員就業規則の改正案
- 第9号議案 給与等支給規程の改正案
- 第10号議案 非常勤職員就業規則の改正案
- 第11号議案 希望の苑自動火災報知機・非常放送設備交換工事に係る一般競争入札案
- 第12号議案 グループホーム(だりあ寮)賃貸住宅契約の更新案

#### 報告事項

- ①令和4年度新型コロナウイルス感染症状況報告
- ②第2期中長期事業計画 令和4年度評価報告

(2) 定時評議員会(令和5年6月27日)

第1号議案 令和4年度法人本部会計及び各事業会計の決算報告案

第2号議案 第15期理事の選任案

第3号議案 第15期監事の選任案

報告事項

①令和4年度新型コロナウイルス感染症状況報告

②令和4年度事業報告

③令和5年度事業計画

④第2期中長期事業計画 令和4年度評価報告

(3) 臨時理事会(令和5年6月27日)

第1号議案 理事長の選定案

第2号議案 常務理事の選定案

第3号議案 給与等支給規程の改正案

第4号議案 積立金の取り崩し案(綾瀬なないろ園)

第5号議案 補正予算案(綾瀬なないろ園、あだちの里地域生活支援センター)

第6号議案 綾瀬なないろ園相談室の増設及び中庭の修繕工事に係る一般競争入札案

(4) 第2回理事会(令和5年9月28日)

第1号議案 経理規程の改正案

第2号議案 社会福祉法人あだちの里ハラスメント防止規程改正案

第3号議案 補正予算案(法人本部)

第4号議案 竹の塚ふれあいセンター廃止案

第5号議案 綾瀬なないろ園 相談室の増設及び中庭の修繕工事請負契約の締結案

第6号議案 希望の苑 自動火災報知設備・非常放送設備交換工事請負契約の締結案

報告事項

①理事長及び常務理事の職務執行状況の報告

(令和6年度足立区予算編成に係わる要望報告、あだちの里地域生活支援センター  
実地検査報告)

②足立区大谷田グループホーム指定管理者の応募(継続)

(5) 第3回理事会(令和5年11月30日)

第1号議案 補正予算案

(法人本部、綾瀬なないろ園、あだちの里地域生活支援センター)

第2号議案 グループホーム賃貸住宅契約の更新案

報告事項

①理事長、常務理事の職務執行状況報告

(綾瀬なないろ園、江北ひまわり園実地検査報告・公益的取組報告・SDGs  
パートナー登録)

(6) 第4回理事会(令和6年2月15日)

第1号議案 内部管理体制の基本方針の策定案

第2号議案 公益通報対応規程の制定案

第3号議案 文書管理規程の制定案

- 第 4 号議案 年度末手当の支給細則の改正案
- 第 5 号議案 通勤手当支給細則の改正案
- 第 6 号議案 竹の塚居宅介護サービスセンター人件費積立金の取り崩し案
- 第 7 号議案 補正予算案
- 第 8 号議案 令和 6 年度幹部職員配置案

報告事項

①理事長及び常務理事の職務執行状況の報告

(竹の塚居宅介護サービスセンター、あだちの里相談支援センター  
足立区実地検査報告)

②希望の苑 自動火災報知設備・非常放送設備交換工事遅延

(7) 第 5 回理事会(令和 6 年 3 月 21 日)

- 第 1 号議案 職員就業規則の改正案
- 第 2 号議案 福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金の一時金支給細則の改正案
- 第 3 号議案 給与等支給規程の改正案
- 第 4 号議案 非常勤就業規則の改正案
- 第 5 号議案 賞与支給細則の改正案
- 第 6 号議案 運営規程の改正案
- 第 7 号議案 文書管理規程の制定案
- 第 8 号議案 経理規程の改正案
- 第 9 号議案 希望の苑 自動火災報知設備・非常放送設備交換工事遅延に伴う  
契約内容の変更案
- 第 10 号議案 令和 5 年度積立金の積立案
- 第 11 号議案 令和 5 年度補正予算案
- 第 12 号議案 第 3 期中期事業計画案
- 第 13 号議案 令和 6 年度事業計画案
- 第 14 号議案 令和 6 年度積立金の取り崩し案
- 第 15 号議案 給食業務委託契約更新案
- 第 16 号議案 送迎サービス業務委託契約更新案
- 第 17 号議案 令和 6 年度法人本部会計及び各拠点会計の当初予算案
- 第 18 号議案 苦情解決第三者委員の選任案

報告事項

①理事長及び常務理事の職務執行状況の報告

(足立区大谷田グループホームの実地検査報告)

2 監事監査と会計監査人監査等

- (1) 監事監査及び会計監査人監査による中間期並びに決算時等の帳簿類等を確認し、  
助言等をいただきました。監査の結果として指摘事項はありませんでした。

	中間監査日	決算等監査日
監事監査	令和 5 年 11 月 21 日	令和 6 年 5 月 9 日
会計監査人監査	令和 5 年 11 月 21 日/12 月 5 日	令和 6 年 5 月 9/10 日

- (2) 足立区による実地検査は下記の事業所を対象に実施されました。

検査の結果、全事業所で文書による指摘はありませんでしたが、口頭による指導や助言がありましたので、その内容は法人内事業所で共有し改善しました。

【実地検査対象事業所】

①あだちの里地域生活支援センター	④竹の塚居宅介護サービスセンター
②綾瀬なないろ園	⑤あだちの里相談支援センター
③江北ひまわり園	⑥足立区大谷田グループホーム

### Ⅲ 法人経営と事業の取組

#### 1 安全安心な事業経営

##### (1) 感染症等への対応

新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を徹底して行いました。感染された方は重症化することなく継続的に事業を利用、就労されています。また、新型コロナウイルス感染症の感染法上の変更に伴い、職員が就業中に感染した際には特別休暇を付与するなど職員が安心して働けられる環境を引き続き整備しました。

【新型コロナウイルス感染症の感染状況】

対象者	令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
ご利用者	175人	155人	20人
職員	178人	129人	49人
合計	353人	284人	69人

##### (2) 人権擁護の推進

各事業所の人権啓発委員が主となり、人権標語の作成や良い支援「にやり・ほっと報告」を職員間で共有し、支援に活かしました。人権擁護、虐待防止に向けた取り組みは次のことを実施しました。

##### ① 「にやり・ほっと報告」報告数

令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
2,081件	2,978件	△897件

- ②全職員による職員行動規範の確認、「セルフチェックリスト」の実施
- ③法人の「人権の日」の取り組みとして、映像研修資料を作成し「虐待防止」、「身体拘束」に係る法人全体研修を実施
- ④法人全体研修として弁護士による「支援における合理的配慮の理解」オンライン研修の実施
- ⑤各事業所ではご利用者の代理人としてご家族を委員に選任し「虐待防止委員会」「身体拘束適正化委員会」の定期的な開催
- ⑥サービス管理責任者を中心に、成年後見人制度に関する研修会の実施

##### (3) 施設整備、修繕

ご利用者・職員の快適な活動環境や職場環境を整えるために社会福祉充実計画に基づき、各施設の修繕・改修や設備整備を行いました。

実施施設	実施内容等
①法人本部	勤怠システムの購入

②竹の塚施設	電話機・警備システム交換、相談室・調理室改修工事
③希望の苑	給排水設備工事、LED電機交換工事
④綾瀬なないろ園	相談室設置・中庭改修工事
⑤西新井ひまわり工房	送迎サービス用車両の購入

#### (4) リスクマネジメント

##### ①リスクマネジメント

各施設のリスクマネージャーが法人内の事故内容やヒヤリハット報告を共有し、事故発生防止のための情報交換を行いました。各施設で法人内の事故に関わる情報を共有し、危機意識の向上と事故防止の啓発活動に繋がりました。また、事故の傾向を基にした注意喚起、KYT(危険予知訓練)、研修(新任、個人情報)を実施し、職員が共通認識を持って業務・支援をしました。東京都、足立区が調査に入るような重大な事故はありませんでした。

【法人で作成した事故等分類表を基にした事故件数】

分類	令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
事故	426件	444件	△18件
軽微事故	175件	200件	△25件
ヒヤリハット報告	3,273件	2,928件	345件

##### ②防災対策の強化

各施設は事業計画に則り、防火・防災の訓練等を実施しました。また、地震・水害に備えたBCP(事業継続計画)を適宜更新してきました。

第二次避難所として指定されている谷在家障がい福祉施設、綾瀬なないろ園、梅田ひまわり工房では、10月に行われた足立区総合防災訓練に参加し、区職員と連携しながら第二次避難所開設訓練を行いました。

法人の災害時等対応職員を招集し、9月に水害(緊急)時想定グループホーム避難訓練を実施しました。感染対策を講じながら初めてご利用者、職員の移送を行いました。

##### ③個人情報保護

個人情報保護に関する法人全体研修を実施しました。今年度から各事業所で開始したインスタグラムに関する質問が多くあり、SNSに関する個人情報保護について確認し、職員一人一人の危機意識を高めることができました。

職員の確認不足による通知の入れ違い等軽微な個人情報関連事故がありました。外部・第三者への漏洩はありませんでしたが、再発防止に向けた対策を検討し、各事業所で事故防止策を実施しました。

【個人情報関連事故数】

令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
21件	20件	1件

## 2 顧客満足度の推進

### (1) ご利用者支援計画の充実

サービス等利用計画及び個別支援計画の見直しに伴うサービス担当者会議は、滞

りなく実施できました。担当者会議を通じて、ご利用者・ご家族に変化が見られた際には関係者を招集し、支援の方向性を見直しました。また、ご家族等の緊急時、即時に短期入所やヘルパーの利用、更に、サービスの追加等ができるように、必要な情報を整理し共通の様式を活用しました。

(2) 高齢化に対応した支援と送迎サービスの実施

高齢化対応として、理学療法士などの専門職の活用と高齢化施設等の実態を把握し、新たな活動プログラムの実施に向け準備をしました。また、各事業所の事例を法人内で共有しました。

生活介護(作業訓練型)全事業所で実施されました送迎サービスに関して、サービス内容を検証しました。委託業者のドライバーの質等に課題が判明し、委託業者に業務内容の改善を求めました。また、継続的にサービスを実施できるように該当事業所の施設長間で業務内容の改善が図れるよう情報を共有しました。

【独自の送迎サービス実施事業所並びに利用者数】 法人全体 67人

事業所名	利用者人数	事業所名	利用者人数
綾瀬ひまわり園	8人	梅田ひまわり工房	4人
竹の塚ひまわり園	13人	西新井ひまわり工房	8人
谷在家福祉作業所	6人	西伊興ひまわり園	13人
希望の苑通所	10人	江北ひまわり園	5人

(3) 保健・衛生管理

健康診断や嘱託医健診、ワクチン接種など、ご利用者の健康管理を行いました。また、食中毒、熱中症、インフルエンザや感染性胃腸炎などが発生しやすい時期には予防策や対応を指導、周知しました。新型コロナウイルス感染症については、ご利用者・職員の健康観察の強化、手洗いやマスクの着脱指導、館内消毒等を行い、陽性者の早期発見、感染拡大防止を図りました。

ご利用者の高齢化に伴い、施設入所やグループホームでは、訪問診療や訪問看護を利用し、医療機関と連携を取りました。

(4) 福祉サービス第三者評価の活用

各事業所では、3年に1回を目安として第三者評価を受審しました。

ご利用者、ご家族、職員の意見、評価機関からの評価を職員で共有し事業運営に反映させ、更なるサービス向上に繋げました。

【福祉サービス第三者評価実施事業所】

①希望の苑(入所)	⑤竹の塚ひまわり園
②希望の苑(通所)	⑥谷在家福祉園
③綾瀬ひまわり園	⑦江北ひまわり園
④綾瀬なないろ園	

3 ニーズに応じた事業展開

(1) 地域移行の推進

希望の苑では、東京都から地域移行推進コーディネーター事業を受託し、城東地区の入所施設を対象に地域移行できるよう働き掛けました。しかし、地域移行する方は

少なく、希望の苑からの地域移行された方はいませんでした。

(2) 相談支援事業の充実

障害福祉サービスの利用計画の作成等を行う特定相談支援や障害児相談支援のニーズが高まると共に、親の高齢化、ご利用者の緊急対応等の基本相談による支援が増えました。また、緊急を要する基幹相談支援センターや援護担当者からの相談支援の依頼（18人）があり、関係機関と連携を強化しご利用者に適した障がい福祉サービスの利用に繋げました。

【基本相談をはじめとする相談支援に関連するご利用者数】

事業名	令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
特定相談支援	807人	796人	11人
特定一般相談	6人	4人	2人
障害児相談支援	31人	25人	6人
自立生活援助	8人	10人	△2人

(3) 地域生活支援拠点の新たな位置づけ

法人内で担っている「相談」「緊急時対応」「体験の場」の機能を活かすために次のことを行いました。

相談では、あだちの里地域相談支援センターが緊急時に支援が必要な方の情報を整理し、共有しました。また、緊急時の対応として、医療機関等への連絡調整を3件行いました。

緊急時対応では、援護担当等行政機関からの緊急時の受け入れを17件行いました。

体験の場では、足立区大谷田グループホームで8の方がグループホームで生活を体験しました。

【緊急時の受け入れ・対応件数（希望の苑緊急時のショート利用）】

令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
17件	15件	2件

【足立区大谷田グループホームの体験者数】

令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
8人	6人	2人

(4) サービス内容の検討と事業の見直し

竹の塚ふれあいセンター（地域活動支援センター）は、平成19年度竹の塚デイサービスセンターに代わり事業を開始しましたが、近年、生活介護、就労継続支援B型等の障害福祉サービスの事業所を待機せずに利用できるようになったことなどの影響により、利用ニーズが激減したためにやむなく3月末日で閉鎖しました。今後、ご利用者のニーズに応えられるよう障がい者の高齢化に対応できる生活介護事業に移行することとしました。

(5) ケース記録システムの導入による業務の標準化とICT活用

昨年度から通所系施設でケース記録システムを運用しましたが、システムを活用して、1年の支援記録データ分析する等効果的に活用できました。また、法人内で業務を標準化することにより、使用方法など職員間で共有することができました。また、ご家族への伝達手段として使用しているメール配信システムではライン等も活用で

き、各ご家族への情報が迅速になりました。

職員の勤怠管理システムを今年1月から試行的に導入し、令和6年4月から一部事業所を除き、本格的に実施できました。

#### 4 法人マネジメントと組織整備

##### (1) 法人本部機能の強化と組織整備

法人本部では財務課、総務課の2課制それぞれの専門機能を十分に発揮することで法人本部の機能強化としてきました。財務課を中心として勤怠ソフトによる勤怠管理を導入し、業務の合理化をスタートさせました。

総務課では理事会及び評議員会の適正な運営を行う中でコンプライアンス遵守の観点から規程類の制定及び改正等を進めました。また、安定した人材確保への採用活動、新規採用者の職場定着への取り組み等を行いました。

##### (2) 各種委員会の整備と事業統括機能の確保

各種委員会は委員会・会議運営計画を基に、会議を実施しました。会議体の運営を効率的に行うため、部会性を取るなど工夫をしました。

専門委員会等は毎月、企画調整会議で各委員長より会議の内容、事業やサービスの現状と課題、委員会での決定事項等を報告し、各事業所で職員に周知しました。また、法人経営の方向性に関連する事項等は、法人委員会の委員長または統括施設長が経営会議に提案し意思決定しました。

##### (3) 大規模施設の組織整備

複数の事業を実施しています多機能型事業所では、ご利用者の在籍人数、利用率、支援量を鑑みた職員の適正配置を行うため、法人本部が中心になり各管理者にヒアリングを行い、職員の配置を整えました。管理者や役職者の主任副主任が一定の範囲の中で機能的で適切にマネジメントできるピラミッド型の組織整備をしました。しかし、一部の事業所で役職者を必要数配置することができませんでした。

##### (4) 広報紙やホームページでの情報提供による透明性の向上

事業運営の透明性を向上させるために適宜情報発信を進めてきました。社会福祉法人の財務諸表開示システムへの届出と公表にあわせ、法人ホームページにも掲載してきました。各事業所での活動内容をInstagramに載せて魅力を発信しました。

法人広報紙「あだちの里法人ニュース」を4月春号、7月夏号、9月秋号、1月新春号の4回発行し、法人活動、動向等を中心にした内容を地域の皆様に向けて情報発信しました。

#### 5 健全財政の確立と財務規律の強化

##### (1) 安定的な経営と収入の確保

新型コロナウイルス感染症の感染やご家族の高齢化等に伴うショートステイの利用で出席率の低下が収入減の要因となる事業所が多くありました。また、物価高騰や人件費の上昇による影響等で大幅に支出が増えました。東京都や足立区による物価高騰支援に係わる特別給付事業を活用し、一部支出を補いました。

収入を確保するために、各事業所での活動の様子をInstagramに載せた広報活

動、イベントでのパンフレット配布や特別支援学校を訪問してご利用者の確保を行いました。しかし、足立区入所調整対象となる生活介護、就労移行支援事業では、新卒者 27 人のうち 7 人の利用に留まりました。

(2) 法人資金管理体制の整備

法人が保有する資産を管理するため、令和 8 年度までの各事業所における設備整備計画を再調査し、可視化することで計画的に資金を準備し、管理する体制を整えました。資産管理を行う上、定量的かつ定性的な評価を行うまで至りませんでした。

(3) 社会福祉充実計画の策定

令和 3 年度より社会福祉充実計画に基づき、サービスの充実を図るため、設備整備を計画的に実行しました。当初計画の最終年度となりましたので、各事業所から修繕計画、備品購入計画の実施状況を確認して、令和 6 年度新たに計画を策定する準備を行いました。

6 職員管理と職員育成の推進

(1) 人材の確保と職場定着

① 新規常勤職員の採用と常勤職員の定着

インターンシップ及び就職説明会の開催、外部就活イベントの参加等、採用計画を策定し実施しました。コロナ禍の中、オンラインを併用しながら実施し、計画通り 19 人の職員を確保することができました。また、非常勤職員から 1 人常勤登用することができました。処遇改善、人材育成の強化を行い、職員の定着について取り組んできました。しかし、一定数の退職者が出ているため、定着率の向上が課題となりました。

【常勤職員推移(年度途中含む)】

採用・退職	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 4 年度対比
採用	19 人	15 人	4 人
退職	17 人	16 人	1 人
差異	2 人増員	1 人減員	

② 非常勤職員の採用

ハローワーク、採用イベントの参加、有料求人誌等を活用し、必要数を確保できました。今年度より子育て手当の創設や賃金を向上させることにより、定着率は高い水準でした。

(2) 人事考課制度の充実

4 月に管理職や役職者、新任考課者向けに考課者研修を実施しました。

現行の人事考課制度の課題改善を行うために、新たに目標管理を取り入れた人事考課制度を令和 6 年度より実施する予定でしたが、各等級ガイドラインの設定や評価方法等整備できず、1 年先送りとなりました。

(3) 研修体系の整備

「0JT 実践シート」を用いて定期的な育成面談を実施し、自己評価、0JT 担当者・一次考課者からの評価を行い、各等級に見合った育成をしました。「研修履歴管理シート」を用いて、法人本部総務課において一元管理を行いました。

非常勤支援員の研修体系を協議し、研修体系一覧を作成しました。非常勤職員の経

験年数等ばらつきがあることから、経験者の研修体系等が課題となりました。

(4) 支援の専門性の確保、向上

生活介護事業を中心に、強度行動障害者等の支援力を強化するため強度行動障害支援者養成研修への積極的な受講に取り組み、重度障害者支援体制を充実させました。また、生活介護委員会ではアドバンス研修修了者が中心となり実践研修修了者に対し、実際の支援現場での悩みや、新たな情報の共有などを行う為にアフターフォロー研修を実施しました。

【強度行動障害支援者養成研修受講者数】

項目	令和5年度	生活介護事業に占める総数
基礎研修	19人	137人
実践研修	28人	79人
アドバンス研修	8人	7人

(5) メンタルヘルス

職員数が50人を超える「希望の苑」、「あだちの里地域生活支援センター」では、ストレスチェックの実施と産業医等による相談窓口を設けました。また、ストレスチェックの実施が必須でない施設・事業についても厚生労働省が制作した簡易的なストレスチェック「こころの耳」を活用しました。職員一人一人が、いきいき働くことができるようメンタルヘルスケアについて学び、メンタル不調にならない為にはどのような活動が必要か情報の収集をしました。

(6) ワーク・ライフ・バランスの推進

仕事と家庭の両立支援の取組や調和の実現のため長時間労働の抑制や年次有給休暇の取得促進を行いました。事業や事業所の状況によりばらつきがある結果となりました。

項目	令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
月平均残業時間	3.5時間	4時間	0.5時間
年間有給休暇取得率	67.1%	68.2%	△1.1%

(7) ハラスメントの防止

「働きやすい健全な職場環境にする」ことを目標に、ハラスメント対策委員会を中心に、ハラスメント防止対策を行いました。

ハラスメント防止マニュアルの改正、ハラスメント防止研修を実施し、ハラスメントの理解促進をしました。また、対策委員が各事業所を訪問し、相談窓口の確認等を行い、内部通報できる仕組みを職員に再周知しました。

(8) 法人内の広報の発行

社内報として職員向けに法人の動向や福祉に携わる職員として必要な知識や理解を深めることを目的に「あだちのさとびっくす」を毎月発行しました。

7 公益的な取組と地域関係機関との連携

(1) 法人としての公益的な取組

①障害基礎年金を受給していない20歳未満の方を対象に給食費免除制度を実施しました。免除者21人、免除額総額1,029,700円

令和5年度	令和4年度	令和4年度対比
21人	26人	△6人

②法人職員が講師になり、地域住民向けに障がいに関連する公開講座と施設見学会を2回実施しました。

第1回公開講座 8月24日「障がい者のライフステージ&福祉サービス」

第2回公開講座 1月26日「知的障がい者を知ろう」

③地域の方に障がいを理解していただけるよう法人職員でプロジェクトチームをつくり「知的障がいのある人を知ろう」動画を制作しました。

(2) 関係団体との連携と社会貢献

足立区社会福祉法人連絡会のホームページに法人で制作した「障がい理解(基礎編)」の動画を掲載して、多くの方に視聴していただきました。また、足立内の民生児童委員の方に対し、障がいのある人を理解していただけるよう施設見学会を行いました。

(3) SDGsの取組

各事業所でのSDGs活動を整理し、職員に対して法人内広報誌を通じ啓発活動を行いました。また、新たな取り組みとして、電気自動車の使用開始、太陽光パネル充電式自家用発電機の購入、「eパラスポーツ」イベントへの参加等を実施しました。

(4) 地域への貢献

毎月第3火曜日を「地域清掃の日」と定め、月に1回全職員が同じビブスを着用し、施設周辺の清掃活動を行い、こども・高齢者の見守りを実施しました。また、地域で実施されたお祭りに参画しました。

(5) 地域法人との連携

足立区社会福祉法人連絡会に各事業所が加盟し、管理者を初めとする職員が総会や研修に参加しました。また、職員が役員会や部会に参加し、足立区内の社会福祉法人が公益的な取組を実施できる体制をつくりました。当法人職員は人材確保・育成部会の役割を担い、「ふくしの仕事相談・面接会」のイベントを主体的に実施しました。

#### IV 後援会活動への協力

綾瀬後援会(綾瀬ひまわり園、綾瀬なないろ園)、竹の塚後援会(竹の塚施設、希望の苑、梅田ひまわり工房、あだちの里地域生活支援センター)、谷在家後援会(谷在家障がい福祉施設、西伊興ひまわり園、西新井ひまわり工房、江北ひまわり園)の3つの法人後援会が地域毎に組織され、地域交流祭等のイベントを共催しました。

(1) 綾瀬後援会 綾瀬ひまわり園・綾瀬なないろ園にて地域感謝祭など(3, 6, 10月)

(2) 竹の塚後援会 竹の塚施設にて地域交流祭(9月)

(3) 谷在家後援会 谷在家障がい福祉施設にて地域交流会(3月)

V 法人本部及び各施設の寄付金状況(寄付者の敬称略)

総額 ￥43,457,862 円

1 法人本部

No.	寄付者	金額	No.	寄付者	金額
1	綾瀬後援会	500,000	5	匿名	10,000,000
2	竹の塚後援会	900,000	6	匿名	50,000
3	谷在家後援会	450,000	7	ハネクトーン早川株式会社 (寄付物品を時価換算)	11,420,010
4	匿名	17,617,052			

2 綾瀬なないろ園

No.	寄付者	金額
1	綾瀬なないろ園家族会	61,200

3 竹の塚ひまわり園

No.	寄付者	金額
1	竹の塚ひまわり園保護者会	530,600

4 希望の苑(入所)

No.	寄付者	金額	No.	寄付者	金額
1	希望の苑(入所)家族会	440,000	2	匿名	200,000

5 希望の苑(通所)

No.	寄付者	金額
1	希望の苑(通所)家族会	378,000

6 谷在家福祉園

No.	寄付者	金額
1	匿名	200,000

7 谷在家福祉作業所

No.	寄付者	金額
1	谷在家福祉作業所家族会	100,000

8 梅田ひまわり工房

No.	寄付者	金額	No.	寄付者	金額
1	梅田ひまわり工房家族会	63,000	3	佐藤昭夫	10,000
2	羽住爽恵	20,000			

9 西新井ひまわり工房

No.	寄付者	金額	No.	寄付者	金額
1	西新井ひまわり工房家族会	225,000	3	3世代バンド	10,000
2	南館洋子	10,000			

10 西伊興ひまわり園

No.	寄付者	金額
1	西伊興ひまわり園家族会	108,000

11 江北ひまわり園

No.	寄付者	金額	No.	寄付者	金額
1	西伊興ひまわり園家族会	108,000	1	江北ひまわり園家族会	165,000